

ライオン通信

<URL><https://kooge.co/>

Vol. 264

2025年12月10日発行

郡家コンクリート工業株式会社

〒680-0433 鳥取県八頭郡八頭町山上 363-17

TEL(0858)73-0500 FAX(0858)73-0535

30年後の鳥取を「自分ごと」に！ 「TALK & MARKET」 若者の熱気が未来を創る

「鳥取県令和の改新戦略本部」主催の鳥取未来志向の祭典「タスクフォースと語る！未来創造ラジオ」TALK & MARKETが、11月16日（日）、鳥取駅前のバードハットで開催されました。快晴の下、幅広い世代の地域住民が多数来場し、会場は未来への熱意に包まれました。当社も参加させていただきましたので、今月はその様子をご紹介します。

この催しの最も重要な目的は、若者が30年後の鳥取の姿を「自分ごと」として捉え、未来創造の具体的な担い手となる意識を高めることです。行政の計画と市民のアイデアを直結させ、具体的なアクションを生み出す「きっかけの場」を提供しました。イベントの核となったのは、公開収録形式で行われたトークセッション。テーマは「30年後の鳥取の理想像と、それを実現するための今日のアクション」です。

県・市の未来戦略担当者、地域課題に取り組む若手経営者、地元大学の担当者など、多様な視点のキーパーソンが登壇しました。

デジタルトランスフォーメーション（DX）による地方の可能性や、若者のUターン・Iターン促進策など、具体的な課題について真剣な議論が展開され、参加者からは積極的な質疑応答があり、未来を変えていこうという強い意志が会場全体に伝わりました。トークイベントの他にもマーケットとして飲食店（ラーメン、お好み焼き、タコス他）と、当社の「ものづくり体験」など11社が出店し、こちらも盛況でした。当社は小学生以下を対象に、速乾性セメントでモルタルを型枠に流し込んでつくる「ものづくり体験」を提供し、多くの方に楽しんでいただきました。

「TALK&MARKET」は、硬質な未来戦略の議論を、飲食や交流を交えながら行うことで、「堅いテーマ」を「楽しい行動」に変換することに成功しました。本イベントは、地域コミュニティの活力を高め、未来志向の議論を一般市民にまで拡大する、地方創生における重要なモデルケースとして、注目されることと思います。

※とっとり未来創造タスクフォースは従来の組織と異なり、若手職員の意欲と想像力を発揮することを目的として設置された組織です。



ご来場
ありがとうございました♪

会計検査



『公共工事と会計検査』の改訂8版より「会計検査こぼれ話」をご紹介します。
一息ついて読んでいただければ幸いです(^-^)/

著者の市川 啓次郎(いちかわ けいじろう)氏は昭和19年生まれ。
元会計検査院 国土交通総括検査室長を務められていました。

会計検査こぼれ話：水平ボーリング（1）

トンネル工事費の中の水平ボーリング2000万余円というのが目につきました。説明を聞くと、沢の下部を掘削する際に切羽から出水が予想されるため、掘削を一時中断し、切羽からトンネル掘削方向へ数本の水平ボーリングを行い水を抜いたとのこと

です。
この水抜きボーリング費用が設計変更で増額となっていました。数本のボーリングの単価は1m当たり約5万円になっています。積算根拠を問うと、トンネル内での同工種について歩掛り等の設定がないので、請負業者から実績を提供させ、それを基に積み上げたといえます。



トンネル内での施工とはいえ、直径わずか10cmのボーリング費用が1mで5万円は高すぎると直感しました。径1m程度のベントやリバースの場所打ち杭でも材工共で5万円程度のはずです。まして、調査ボーリングと違って水抜き用ですからノンコアボーリングです。

設計変更金額の根拠となった業者提出の実績を見ると、確かにボーリング掘削に準備工を含め昼夜2方作業で3週間近くかかったとなっており、その間の機械、労務費を積み上げると2000万円強になります。この程度のボーリングなら数日でやるのが普通です。この実績は絶対おかしいと確信を持ったものの、実績データをどうやって崩し、本当の実績を明らかにするかが問題です。これがかなり難しい。正面から行ったのではダメです。受検側にはそんな疑問を持ったことを悟られないようにして、ひとまず他の工種の検査に移りました。

翌日、トンネル現場を見たあと、現場事務所に立寄りました。事務所の担当課長のデスクに分厚い〇〇トンネル地質調査報告書が立ててあるのが見えました。その報告書を見せてほしいと要請しました。トンネル掘削費用は地質判定により大きく左右されます。当方が地質報告書に関心を持つのは当然と思ったのでしょうか。快く貸してくれました。

その日報告書を宿へ持って帰り、広げていると、なんとその中に水平ボーリング工の施工日がメモされています。それによると準備工1日、掘削工は3日となっています。予想通りです。

(K)



レオ

ちゃんの製品紹介コーナー



特殊品特集 ①

ライオン通信のレオちゃんです♪



今年最後の製品紹介は、『特殊品』のご紹介です。

今年も様々なお問い合わせをいただき、1点物の製品を納品しました。

お客様の「こんなものがつくりたい！」というご要望にお応えしますので

「こんなものつくれるかな？」と思う製品でも気軽にお問い合わせください♪

納品実績を何回かに分けてご紹介しますので、是非ご覧ください^^

HPC® パネル

厚さ40mmのHPC®(ハイブリッドプレストレストコンクリート)が、大阪・関西万博のシグネチャーパビリオン「いのちめぐる冒険」外装材として採用されました。同パビリオンは、河森正治氏がプロデュース、建築家・小野寺匠吾氏が設計を担当。要望に応え、大阪湾の海水を100%使用したHPC®を製作し、錆びない炭素繊維緊張材により高耐久性を実現しました。多数のキューブ状セルによる生命感ある造形を支え、3Dプリンティング技術で高意匠の化粧パネルも製作。HPC®は自由で持続可能なものづくりを可能にし、コンクリートの新たな可能性を広げています。



** Data **

設計：小野寺匠吾建築設計事務所 様
 サイズ：H2438×W2548×t40 mm 他
 仕上げ：プレーン、3Dプリンティングによる化粧模様



パビリオン内には、
 コンクリート製のベンチも
 納品しました。



モニュメント

東京都世田谷区の複合施設「HOME/WORK VILLAGE」に、施設コンセプトに合わせたモニュメントを製作・納品しました。同施設は、中学校跡地を活用し、「働く・暮らす・学ぶ」を軸に、多様な人々が集い交流を育む地域の新たな拠点として整備されたものです。地域課題に向き合い、次世代へ価値をつなぐ理念のもと、新しい働き方やコミュニティが生まれる場として開かれています。

納品したモニュメントは、施設名をかたどった亚克力サインを埋め込んだデザインで、カラーモルタルを使用。

地域の未来づくりに関わるプロジェクトに携われたことを光栄に思います。



写真提供: 株式会社ブルースタジオ様

** Data **

設 計: 株式会社ブルースタジオ 様
 サ イ ズ: (ブラック) L1622×D700×H433 mm 他
 仕 上 げ: カラーモルタル

ディスプレイ用テラゾ平板



写真提供: (有)ウラベ様

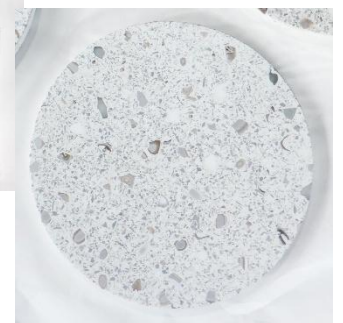
** Data **

発 注: (有)ウラベ様
 サ イ ズ: φ140、φ170、φ235×t15mm 他
 仕 上 げ: 表面研ぎ出し仕上げ

(有)ウラベ 様…波佐見焼の生地屋。
 インテリアデザイナー 本村らん子様とプロジェクトチーム『Utte』
 では、波佐見焼産地から出る産業廃棄物を減らす活動を行っており、現在は主に陶片を使ったテラゾマテリアルを開発中です。

佐賀県・嬉野温泉で創業98年の旅館「吉田屋」様は、2023年11月に地域をつなぐ開かれた庭「宿屋うちろじー本通りー」を新たにオープンされました。その1階に誕生した、温泉街初の路面チョコレートショップ「ROCCU」のディスプレイ什器として弊社製品をご採用いただきました。

陶器焼成に使う「ボシ」に波佐見焼の廃材テラゾタイルを組み合わせ、丸板サイズごとに異なる色味のテラゾを使用。淡いブルーやグレーと白いコンクリートが調和し、チョコレートの魅力をより際立たせる上質な展示空間を演出しています。



☆☆ 編集後記 ☆☆

今年も弊誌をご愛読いただき、ありがとうございました。

今年の出来事の中でも、やはり大阪・関西万博で弊社の製品を使っていただけことは、とても喜ばしいことでした。

12月に入っても日中と朝晩の気温差が大きく、体調を崩しやすい時期が続いています。どうぞ無理をなさらず、元気に新しい年をお迎えください。

(土田)

年末年始 休業日のお知らせ

弊社の年末年始の休業日は
 下記の通りとさせていただきます。

12月27日(土)~1月5日(月)まで

※1月6日(火)から平常営業いたします。

<URL> <https://kooge.co/>

<e-mail> info@kooge.co